漱石枕流

名前（　　）　日づけ（　／　）　できた数（　／28）

使い方　書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**この話の山は再読文字「当」、「可〜乎」の疑問・反語、理由の「所以」、そして言いまちがいの中身**です。

あらすじ＝西晋の孫子荊（孫楚）は、若いころ世間を離れて隠者として暮らしたいと思い、友人の王武子に「石を枕にして寝て、川の流れで口をすすぐ暮らしをしよう」と話そうとした。ところが「石で口をすすぎ、流れを枕にする」と言いまちがえてしまう。王武子に「流れを枕にでき、石で口をすすげるのか」と突っこまれると、孫子荊は「流れを枕にするのは耳を洗うため、石で口をすすぐのは歯をみがくためだ」と、とっさに理屈をつけて言い返した。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

孫子荊（そんしけい）、①年（とし）少（わか）き時、②隠（かく）れんと欲（ほつ）す。③王武子（わうぶし）に④語（かた）るに、⑤当（まさ）に石（いし）に枕（まくら）し流（なが）れに漱（くちすす）がんとすべきに、⑥誤（あやま）りて曰（い）はく、「⑦石（いし）に漱（くちすす）ぎ流（なが）れに枕（まくら）す」と。王（わう）曰（い）はく、「⑧流（なが）れは枕（まくら）すべく、⑨石（いし）は漱（くちすす）ぐべきか」と。⑩孫（そん）曰（い）はく、「⑪流れに枕する所以（ゆゑん）は、⑫其（そ）の耳（みみ）を洗（あら）はんと欲（ほつ）すればなり。⑬石に漱ぐ所以は、⑭其の歯（は）を礪（みが）かんと欲すればなり」と。

語注　孫子荊＝西晋の人。王武子＝孫子荊の友人。石・流れ＝山の石と、谷川の水の流れ。※「当枕石漱流」の「当」は、この本文では地の文と見て「当に〜とすべきに（本来なら〜と言うべきところを）」と読みました。「〜漱がんといふべきに」「〜漱がんとすとすべきに」など送りがなが少しちがう本や、「当」を孫子荊の言葉の一部と見て「王武子に語るに『当に石に枕し流れに漱ぐべし』と」のように読む本もあります。また「流可枕、石可漱乎」は、疑問（〜べきか）とも反語（〜べけんや）とも読まれます。「礪」は「みがく」とも「とぐ」とも、「漱」は「くちすすぐ」とも「すすぐ」とも読みます。お使いの教科書に合わせてください。

A　語句の意味と読み（1〜6）

(1)　①「年（とし）少（わか）き時」の意味を書け。

(2)　②「隠（かく）れんと欲（ほつ）す」の「隠る」は、ここではどのように暮らすことをいうか。

(3)　⑤「当（まさ）に石（いし）に枕（まくら）し流（なが）れに漱（くちすす）がんとすべきに」の「枕（まくら）し」の意味を書け。

(4)　⑤「当（まさ）に石（いし）に枕（まくら）し流（なが）れに漱（くちすす）がんとすべきに」の「漱（くちすす）がん」の「漱ぐ」の意味を書け。

(5)　⑥「誤（あやま）りて」の意味を書け。

(6)　⑭「其の歯（は）を礪（みが）かんと欲すればなり」の「礪（みが）く」の意味を書け。

B　句法（7〜13）

(7)　②「隠（かく）れんと欲（ほつ）す」の「〜んと欲す」の意味・用法を書け。

(8)　⑤「当（まさ）に石（いし）に枕（まくら）し流（なが）れに漱（くちすす）がんとすべきに」の「当」は何と呼ばれる字か。読み方と、基本の意味を書け。

(9)　⑧「流（なが）れは枕（まくら）すべく」の「べく」は、白文ではどの字にあたるか。また、ここでの意味を書け。

(10)　⑨「石（いし）は漱（くちすす）ぐべきか」の文末の「か」は、白文ではどの字にあたるか。また、この本文の「〜べきか」は、疑問と反語のどちらの読み方か。

(11)　⑨「石（いし）は漱（くちすす）ぐべきか」を反語として読む場合の書き下し文と、その意味を書け。

(12)　⑪「流れに枕する所以（ゆゑん）は」の「所以」の読みを現代仮名遣いで書き、その意味を書け。

(13)　⑫「其（そ）の耳（みみ）を洗（あら）はんと欲（ほつ）すればなり」の「〜ばなり」は、どのような意味を表すか。⑪の「所以は」との関係にふれて書け。

C 主語・指す内容（14〜17）

(14) ④「語（かた）るに」の主語は誰か。また、誰に語ったのか。

(15) ⑩「孫（そん）曰（い）はく」の「孫」とは誰か。また、誰の言葉に答えているのか。

(16) ⑫「其（そ）の耳（みみ）を洗（あら）はんと欲（ほつ）すればなり」の「其」は、誰を指すか。

(17) ⑧⑨で王武子が問題にしているのは、誰のどの言葉か。傍線の番号で答えよ。

D 口語訳（18〜21）

(18) ①②を含む「孫子荊、年少き時、隠れんと欲す」を口語訳せよ。

(19) ④⑤⑥⑦を含む「王武子に語るに、当に石に枕し流れに漱がんとすべきに、誤りて曰はく、『石に漱ぎ流れに枕す』と」を口語訳せよ。

(20) ⑧⑨「流れは枕すべく、石は漱ぐべきか」を口語訳せよ。

(21) ⑪⑫⑬⑭を含む「流れに枕する所以は、其の耳を洗はんと欲すればなり。石に漱ぐ所以は、其の歯を礪かんと欲すればなり」を口語訳せよ。

E　内容・記述（22〜24）

（22）⑦「石（いし）に漱（くちすす）ぎ流（なが）れに枕（まくら）す」は、⑤とどこがちがうのか。説明せよ。

（23）⑧⑨「流（なが）れは枕（まくら）すべく、石（いし）は漱（くちすす）ぐべきか」で、王武子はどのようなことを言おうとしたのか。説明せよ。

（24）⑩「孫（そん）曰（い）はく」以下の答え方から、孫子荊はどのような人物だと読み取れるか。四十字以内で書け。

F　文学史・故事（25〜28）

（25）この話の出典の書名と、その編者を書け。

（26）③「王武子（わうぶし）」の「武子」や「孫子荊」の「子荊」は、本名（名）とは別に、成人した男子が用いた呼び名である。これを何というか。漢字一字で書け。

（27）⑦の言いまちがいから生まれた四字の故事成語を書け。また、その意味を書け。

（28）⑦の言葉からとった「漱石」という号（ペンネーム）を名のった、明治時代の文学者は誰か。

【テスト直前チェック】この三つ　❶「当」は再読文字。「当（まさ）に〜べし」と二度読む。一度目は副詞「まさに」、二度目は助動詞「べし」（本文では「〜とすべきに」の形）。「まさに」だけで終わらせると即アウト。 **❷「所以」は「ゆゑん」＝理由・わけ。**「流れに枕する所以は、〜と欲すればなり」＝「流れを枕にするわけは、〜したいからだ」。「所以は〜ばなり」の組み合わせごと覚える。 **❸「可〜乎」は疑問とも反語とも読まれる。**「石は漱ぐべきか」「石は漱ぐべけんや」のどちらで習ったかを確かめておく。記述問題の答えは「言いまちがいを認めず、こじつけた負けおしみ」に集まります。

▸ 漢文の参考書のおすすめ（楽天・Amazonのリンクつき）　kotennosennsei.com/kanbun-sankousho/　　▸ 解説記事にもどる